20230312 朝刊 （生活・くらし）

北海道新聞
第3種郵便物認可

外傷外科医の育成支えて

「避けられた死」ゼロへ

事故、災害、事件による外傷患者を速やかに治療し命を救う外科医が道内で不足しているとして、北大大学院医学研究院消化器外科教室Ⅱは、外科医が専門の外傷救命トレーニングを受け診療技術を習得できるシステムの整備資金をクラウドファンディング（CF）で募っている。「外傷で命を落とす人をゼロにしたい」と支援を呼びかけている。

（編集委員　岩本進）

北大消化器外科教室ⅡがCF

消化器外科教室Ⅱは、消化器のがんを中心とする外科医のほか、外傷を負った人の命を救う外傷外科医を育てている。

同教室によると、外傷患者の救命には、大量の出血を止血するなど初期対応の手術「ダメージコントロール手術」が重要になる。だが、外科医なら誰でもできる手術ではなく、経験やトレーニングで特別な手技の習得が必要だという。

近年、交通事故などの減少で外科医が外傷患者を診療する機会が減っている。また、手術のトレーニングは、シミュレーターや献体、動物を用いるが、開催費や受講料が高額で、十分な回数の提供が困難だ。トレーニングも不足している。

こうした状況下、道内の各地域の病院で、外傷患者にダメージコントロール手術を迅速かつ適切に行える外科医は、数えるほどしかいないというのが現状だ。

一方、厚生労働省は、全国の救命救急センターを対象にした調査で、外傷によって命を落とした患者の4割はより適切な治療を行っていれば救命できた可能性がある、と指摘している。

そこで、消化器外科教室Ⅱは、外傷外科医を育成し、道内の「避けることができた外傷死」の撲滅を目指し、今月1日からCFで支援を呼びかけ始めた。

目標額は500万円。集まった寄付は、地域の病院の一般外科医を対象にした講習会開催費や参加者の受講料補助、外傷外科医を育成する環境整備に充てる。

同教室の平野聡教授（60）と担当の村上壮一助教（52）は「外傷患者の治療は出血との闘いで、一瞬の処置が命を左右する。平時からのトレーニングが絶対に必要だ。全道各地にいる外科医が自信を持って外傷を診療できるよう、技術を学び身につけるチャンスをいただきたい」と話す。

CFのチラシを手に、外傷外科医育成のための支援を呼びかける、平野聡教授（左）と村上壮一助教

救命技術習得へトレーニング

ＣＦの募集は４月29日まで。目標額を達成できなければ返金する。寄付額は５千～100万円。詳細や寄付はＱＲコード、または特設サイトhttps://readyfor.jp/projects/surg2-hokudaiから。問い合わせは先は、北大消化器外科教室Ⅱの電話011・706・7714。

©北海道新聞社